



## 坐薬の種類と使い方



坐薬は、**直腸(肛門)から投与する薬**で、痔の坐薬のように局所で効くものと、痛み止めや痙攣止めのように全身に効くものがあります。

### \* 坐薬の種類 (当薬局取り扱い薬)

効能効果	薬品名	基剤特性
解熱・鎮痛剤	アルピニー坐薬50mg・100mg・200mg	油脂性
鎮痛・抗炎症・解熱剤	ボナフェック坐薬25mg・50mg	油脂性
消化管運動改善剤(吐き気など)	ナウゼリン坐薬30mg・60mg	水溶性
便秘治療剤	新レシカルボン坐薬	油脂性
抗けいれん剤	ダイアップ坐薬4mg・6mg・10mg	水溶性
痔治療剤	ネリプロクト坐薬	油脂性

### \* 坐薬と内服薬の違いは！

- ①内服薬と違い直接血液中に吸収されるため、肝臓で分解を受けず薬の効きが早い事が期待できます。
- ②内服薬に比べて胃腸障害が少ない
- ③体調によって内服ができない時も使用できます。
- ④食事の影響を受けにくい

### \* 2種類の坐薬を併用するときの注意点！

坐薬の基剤によって使用する順番が違います。！！

- ① 同一基剤の坐薬を併用する時－5分程度間隔を開けて下さい。
- ② 油脂性基剤と水溶性基剤を併用する時－水溶性基剤を先に挿入し、30分あけて油脂形基剤を挿入
- ③ 便秘の坐薬を併用する時－先に挿入した坐薬の吸収を考慮し、1時間以上あけて最後に挿入

### \* 坐薬が挿入後でしまったら・・・

- ★ 挿入直後で形が残っている場合－再度挿入できます。
- ★ 10分以上たってから出てきた場合－溶けて吸収されている可能性もあるので様子を見て4時間以上あけて下さい。

**坐薬が出ないように挿入後20～30分くらいは歩行や激しい運動を避け安静に！**

### \* 内服薬と坐薬での副作用の違いは？

長期間の使用では内服薬と同じ副作用が起きる可能性があります。

坐薬は体温で溶けるように作られています。室温が高いと溶けて品質が悪くなることもあります。  
冷蔵庫で保管して下さい。

参考文献：調剤と情報

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。\_\_\_\_\_

(お薬によっては時間がかかることがあります) あすなろ武川薬局

TEL 0551-26-3800

FAX 0551-26-3810